

河村（丸岡）律子 教授 略歴・主要著作目録

略歴（学歴および職歴）

1979年	京都大学農学部農林経済学科卒業
1981年	京都大学大学院農学研究科修士課程農林経済学専攻修了
1984年	京都大学大学院農学研究科博士後期課程農林経済学専攻指導認定
1998年	立命館大学国際関係学部助教授
2015年	立命館大学国際関係学部教授

（主な学内役職歴）

2006年度	学生主事
2007～2008年度	立命館情報化推進機構副機構長
2011～2012年度	副学部長（教学担当）
2016～2017年度	副学部長（教学担当）
2017～2018年度	大学評議員
2019～2021年度	学部長

研究業績

論文

- （単著）「三原農家の社会的性格」『地域農業の革新—淡路島における地域複合体の形成—』（坂本慶一・高山敏弘編著）明文書房、1983年11月
- （単著）「研究条件にみる男女格差とライフサイクル」『女性研究者—あゆみと展望—』（猿橋勝子・塩田庄兵衛編著）ドメス出版、1985年7月
- （単著）「集落複合体の展開と再編」『地域産業複合体の展開』（坂本慶一ほか共編著）明文書房、1986年1月
- （共著）「消費者の食品選択行動—アメリカ・レポート—」河村能夫・丸岡律子著、『農業と経済』54巻8号、富民協会／毎日新聞社、1988年8月
- （共著）「計量科学への誘い（2）」『センターニュース・コム』河村律子ほか著、愛知大学情報

- 処理センター、1993年12月
- (単著)「究極のグルメが土壌を守る」、「菜食は肉食よりも環境への負担が小さい」西岡秀三編著『地球環境50の仮説』東海大学出版会、1994年8月
- (共著)「計量科学への誘い(3)」『センターニュース・コム』河村律子ほか著、愛知大学情報処理センター、1995年3月
- (単著)「滋賀県における農家労働力構造の変動—因子分析による1970年から1990年の変化—」『地域総合研究』6号、龍谷大学地域総合研究所、1995年3月
- (共著)「計量科学への誘い(4)」『センターニュース・コム』Vol.6 No.2、河村律子ほか著、愛知大学情報処理センター、1995年6月
- (単著)「酪農家の女性がいきいきと生きるために」『酪農事情』Vol.55 pp.18-24、酪農事情社、1995年7月
- (単著)「大学の街 京都で学ぶ学生の意識調査」『都市研究・京都』11号 pp.59-74、京都市総合企画局、1999年3月
- (単著)「コンピュータを利用したフィールド調査」中村尚司・広岡博之編著『フィールドワークの新技法』pp.123-144、日本評論社、2000年3月
- (単著)「世界の食料・農業と環境問題」関下稔ほか編著『クリティーク国際関係学』pp.125-142、東信堂、2001年4月
- (単著)「食の多様性と農業の展開方向」『越境する資源環境問題』(唐沢敬編著) pp.146-164、日本経済評論社、2002年7月
- (単著)「システムを利用したグローバル・シミュレーション・ゲーミング」『大学教育と情報』Vol.15 No.3 pp.18-20、社団法人私立大学情報教育協会、2007年1月
- (単著)「ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)の利用可能性」『大学時報』318号 pp.80-83、社団法人日本私立大学連盟、2008年1月
- (単著)「政策評価制度によせる期待」『都市政策・京都』21号 pp.65-77、京都市総合企画局、2008年3月
- (共著)「食品由来のハザード別にみたリスク知覚構造モデル—SEMによる諸要因の複雑な連結状態の解析—」新山陽子ほか著、『日本リスク研究学会誌』21巻4号 pp.295-306、2011年
- (共著)「食品由来リスクの認知要因の再検討—ラダリング法による国際研究—」新山陽子ほか共著、『農業経済研究』82巻4号 pp.230-242、2011年3月
- (単著)「農家の女性が先生に—女性農業委員による食育活動—」『農業と経済』77巻12号 pp.45-51、2011年12月
- (共著)「フランス、オランダの農業・食品分野の専門職業組織—設立根拠法と組織の役割、職員の専門性—」『フードシステム研究』20巻4号 pp.386-403、2014年3月

- (共著)「経済のグローバル化における食と農の連携関係のあり方を探る」河村能夫・河村律子著、『ACADEMIA』No.152 pp.50-63、2015年7月
- (単著)「グローバル・シミュレーション・ゲーミング—立命館大学国際関係学部における実践—」近藤敦ほか編著『大学の学びを変えるゲーミング』pp.151-166、晃洋書房、2020年1月
- (共著)「フランス、オランダの農業・食品分野の専門職業組織—設立根拠法と組織の役割、職員の専門性—」新山陽子ほか著、新山陽子編著『農業経営の存続、食品の安全』pp.272-306、昭和堂、2020年4月

報告書

- (単著)「三原町小複列にみる『地域複合体』の展開」ほか二編『「地域複合体」の展開と地域農業の再編に関する実証的研究—淡路地域を事例として—』[研究代表者坂本慶一 昭和56年度文部省科学研究費補助金(総合A)研究成果報告書]1982年3月
- (単著)「成願寺地域にみる『地域複合体』の展開」『「地域複合体」の展開と地域農業の再編に関する実証的研究—丹後地域を事例として—』[研究代表者坂本慶一 昭和57年度文部省科学研究費補助金(総合A)研究成果報告書]1983年3月
- (共著)『「婦人研究者のライフサイクルの調査」分析』『婦人研究者のライフサイクル調査研究報告』[研究代表者 塩田庄兵衛 昭和58年度文部省科学研究費補助金(総合A)研究成果報告書]1983年10月
- (単著)「安曇川町横江浜における農業経営と集落生活の変化」『都市化・工業化に伴う琵琶湖集水域における水・土地利用と地域構造の変化に関する研究』(財)農村問題調査研究会、1984年3月
- (共著)「総合的分析」『婦人研究者のライフサイクル調査研究—アンケートによる実態調査の分析結果・その2—』[研究代表者 塩田庄兵衛 昭和59年度文部省科学研究費補助金(総合A)研究報告書]1984年6月
- (共著)「ライフサイクル分析」ほか二編『婦人研究者のライフサイクル調査研究—アンケートによる実態調査の分析—』[研究代表者 塩田庄兵衛 昭和59年度文部省科学研究費補助金(総合A)研究報告書]1984年8月
- (単著)「大中の湖農家の意識構造」『都市化・工業化に伴う琵琶湖集水域における水・土地利用と地域構造の変化に関する研究』(財)農村問題調査研究会、1985年3月
- (共著)「消費者の食品選択および食生活型と環境負荷の国際比較」『平成5年度地球環境保全のための社会経済システムのあり方に関する国際比較研究』[平成5年度国立環境研究所委託業務結果報告書]1994年3月
- (単編)『大学生の生活及び社会的関心に関するアンケート調査結果』龍谷大学経済学部 河村

律子ゼミ、1996年3月

- (共著)『震災に関するアンケート調査報告書』生活協同組合都市生活(西宮市)、1996年6月
- (単編)『大学生の就職に関する意識調査—企業体験、起業への可能性を求めて』龍谷大学経済学部 河村律子ゼミ、1997年12月
- (共編)『京都市内の大学生の「京都」の満足度と利用度の測定調査研究報告書』龍谷大学経済学部 廣岡博之ゼミ・河村律子ゼミ、1998年4月
- (共著)『選ぶ農業を支援する体制づくり—新規就農者の営農と生活実態に関する調査報告書—』京都府農業会議(農政研究資料第01-113号)、2002年3月
- (単著)「農業開発における環境への対応—PNGを事例として—」河村律子編『グローバル経済化のもとにおける資源・エネルギー・食糧問題と環境政策』(平成15年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書)、pp.71-81、2005年3月
- (単著)「過年度修了生アンケートから見るインターンシップの状況」『今後の展開についての提言書—インターンシップ研究会報告書—』(『産官学地域連携による人材育成プログラム報告書』と合冊) pp.45-78、立命館大学(編集協力 財団法人大学コンソーシアム・京都)、2009年3月
- (単著)「COKZ/オランダ乳・乳製品品質管理機構」『食品安全・衛生のプロフェッションの確立に関する調査報告書—フランス、オランダにおける専門職業間組織(事業者団体)の役割と職員の専門性—(ヒアリング記録と関連法)』研究代表者 新山陽子 日本学術振興会科学研究費助成研究基盤(S)「食品リスク認知とリスクコミュニケーション、食農倫理とプロフェッションの確立」 pp.86-94、2012年10月
- (単著)「PZ/オランダ酪農製品機構(Productschap Zuivel)」『食品安全・衛生のプロフェッションの確立に関する調査報告書—フランス、オランダにおける専門職業間組織(事業者団体)の役割と職員の専門性—(ヒアリング記録と関連法)』研究代表者 新山陽子 日本学術振興会科学研究費助成研究基盤(S)「食品リスク認知とリスクコミュニケーション、食農倫理とプロフェッションの確立」 pp.68-76、2012年10月
- (単著)「過年度修了生アンケートから見るインターンシップの状況」『インターンシップ・プログラム修了生アンケート調査報告書(2015年度公益財団法人大学コンソーシアム京都指定調査課題)』 pp.22-53、公益財団法人大学コンソーシアム京都、2016年3月

翻 訳

- (単著)レイモンド・ジュソーム著「アメリカ人の目から見た日本農業の将来」『農業と経済：臨時増刊号』56巻6号、富民協会／毎日新聞社、1990年5月
- (単著)レイモンド・ジュソーム著「日本の果汁市場調査と疑問点」『農業と経済』57巻5号、

富民協会／毎日新聞社、1991年5月

(単著) N. シャンムガラトナム著「発展と環境—『南』の危機」『アジアからみる アジアを
みる—外国人労働者と海外投資』(中村尚司・河村能夫編著) 阿咩社、1994年3月

(単著) フランシスチェク・トムチャック著「ポーランドの農業・農村の未来—三つの転換の
経験から」『農業と経済』61巻10号、富民協会／毎日新聞社、1995年8月

(単著) イサオ・フジモト著「アメリカ農業の二つの道—交差点からのメッセージ」『農業と経
済』61巻10号、富民協会／毎日新聞社、1995年8月

(単著) F.H. バトル /O.F. ラーソン /G.W. ギレスピー Jr. 著「農業構造の社会学研究」『農業の
社会学—アメリカにおける形成と展開』(河村能夫・立川雅司監訳) pp.7-51、ミネルヴァ書房、
2013年9月

書 評

(単著) 「生命へのこだわりが生む感性豊かなメッセージ (山崎洋子著『田舎暮しはすてき』)」
『農業と経済』58巻12号、富民協会／毎日新聞社、1992年11月

(単著) 「農村女性問題研究会編『むらをかす女性たち』」『地域農業と農協』22巻1号、農
業開発研究センター、1992年12月

(単著) 「女性と高齢者を積極的に評価した農村型生活の創造 (森川辰夫著『生活者の創る農と
くらし』)」『農業と経済』59巻12号、富民協会／毎日新聞社、1993年11月

(単著) 「農村生活のアンビバレンス解消をめざして (川嶋良一監修・日本農村生活研究会編『農
村生活研究の奇跡と展望』)」『農業と経済』60巻5号、富民協会／毎日新聞社、1994年5月

(単著) 「『生活の価値』の実現をめざす (地域社会計画センター編『農村の女性起業家たち』)」
『農業と経済』61巻6号、富民協会／毎日新聞社、1995年6月

(単著) 「働く中に生きがいを見つける女性たち (天間征著『酪農の妻たち—その生き方と考
え方』)」『農業と経済』61巻13号、富民協会／毎日新聞社、1995年11月

(単著) 「綿密な生活時間分析による家族農業経営の実証研究 (熊谷苑子著『現代日本農村家族
の生活時間—経済成長と家族農業経営の危機』)」『農業と経済』64巻9号 p.66、富民協会/
毎日新聞社、1998年8月

(単著) 「分析的枠組みの提示による新たな議論の呼び水 (OECD 著、空閑信憲ほか訳『OECD
レポート 農業の多面的機能』)」『農業と経済』68巻3号、昭和堂、2002年3月

(単著) 「熊谷苑子著『現代日本農村家族の生活時間—経済成長と家族農業経営の危機』」『農
業問題研究』38巻1号、2002年6月

その他の著作

- (共著)「アメリカの文化人類学者〔R・J・スミス〕がみた日本のムラ・アメリカのムラ」河村能夫・丸岡律子著、『農業と経済』49巻7号、富民協会／毎日新聞社、1983年7月
- (単著)「国際関係データネットワーク」『社会情報リテラシー』オーム社、1999年4月
- (単著)「食生活の変化と日本の農村社会」『グローバル段階の日本の食料・農業・農村』立命館土曜講座シリーズ7 pp.1-26、立命館大学人文科学研究所、2000年3月
- (単著)「知る努力と知らせる努力」『兵庫県農業経営改善支援センターだより』24号、2003年2月
- (単著)「ワークショップという試み」『嶺北地域における国土保全に資する地域活性化計画調査』、2003年3月
- (単著)「女性委員なお少数派 もっと増やして地域にパワーを」『全国農業新聞 京都版』、2005年6月
- (単著)「教員の協働で実現されているアクティブラーニング事例：立命館大学国際関係学部」『「学び」の質を保証するアクティブラーニング—3年間の全国大学調査から—』(河合塾編著) pp.50-65、東信堂、2014年5月
- (単著)「エッセンシャルな農の発信を」『新・田舎人』104号 pp.2-3、ふるさと保全ネットワーク、2020年7月

学会報告

- (共同)「立命館大学国際関係学部における GSG (体験セッション)」日本シミュレーション&ゲーミング学会 2006年度秋季全国大会 (立命館大学)、2006年11月
- (共同)「消費者の食品リスク認知の特質に関する予備的分析」日本リスク研究学会第20回年次大会 (徳島大学)、2007年11月
- (共同)「日米韓の消費者の食品リスク認知に関する予備的比較分析」2008年度日本農業経済学会大会 (宇都宮大学)、2008年4月
- (共同)「日本の消費者にみる食品由来リスクの知覚構造」2009年度日本農業経済学会大会 (筑波大学)、2009年4月
- (共同)「国別にみたりリスク認知構造の特徴」日本農業経済学会大会 (京都大学)、2010年3月
- (共同)「ハザード別にみたりリスク知覚構造の特徴」日本農業経済学会大会 (京都大学)、2010年3月
- (共同)「市民の食品由来リスク知覚構造の国際比較分析」日本リスク研究学会第23回年次大会 (明治大学)、2010年11月
- (単独)「グローバル・シミュレーション・ゲーミング授業の転換～立命館大学国際関係学部」

- における実践の成果と今後の展開」日本シミュレーション&ゲーミング学会 2012年度春期全国大会（流通経済大学新松戸キャンパス）、2012年6月
- (単独)「地域コミュニティ活性化における学生の役割」第64回地域農林経済学会大会（京都府立大学）、2014年10月
- (単独)「地域活性化施策における外部者としての学生の役割」日本村落研究学会第62回大会(グリーンピア三陸みやこ（岩手県宮古市))、2014年11月
- (共同)「食品由来リスク知覚の基本構造モデル：潜在因子の因果系列と一般的信頼・世界観の影響」日本リスク研究学会第27回年次大会ポスターセッション（京都大学）2014年11月
- (単独)「地域活性化にかかる戦略的課題～学生参画による取り組み事例～」平成28年度日本農業経営学会研究大会地域シンポジウム「京都府・北部地域活性化への挑戦 一海の京都構想を中心に」(京都大学)、2016年9月

学会および社会における活動

- 1999年1月 兵庫県農林漁業審議会委員（2000年12月まで）
- 1999年4月 大学コンソーシアム・京都 インターンシッププログラムコーディネータ（2019年3月まで）
- 1999年9月 京都府農業会議常任会議員（2016年4月より一般社団法人京都府農業会議常設審議会委員、現在に至る）
- 1999年12月 京都府農政問題協議会委員（2003年11月まで）
- 2000年1月 京都府農林漁業・農山漁村政策研究会委員（2001年12月まで）
- 2002年1月 兵庫県農林水産政策審議会委員（2016年3月まで）
- 2002年1月 京都府卸売市場審議会委員（2003年12月まで）
- 2003年4月 京都府産業教育審議会委員（2009年3月まで）
- 2004年4月 京都市政策評価制度評議会委員（2007年度より条例施行により京都市政策評価委員会に改称、2011年4月より委員長、2014年3月まで）
- 2006年7月 京都府中山間ふるさと保全委員会委員（2009年3月まで）
- 2007年4月 京都市基本計画点検委員会委員（2008年3月まで）
- 2007年4月 私立大学情報教育協会理事（2009年3月まで）
- 2008年4月 京都市行政評価調査会議委員（2009年3月まで）
- 2008年6月 京都府農林水産部政策検討委員会（生産と消費の提携による農業推進プラン）座長（2011年3月まで）
- 2009年10月 京都市基本計画審議会委員（2010年11月まで）
- 2010年10月 滋賀県ふるさと・水と土保全対策委員会委員（2012年9月まで）

2013年3月	滋賀県ふるさと・水と土保全対策推進懇話会委員（2017年8月まで）
2013年5月	NPO 法人 日本都市農村交流ネットワーク協会理事（2014年5月より理事長、現在に至る）
2014年7月	京都府開発審査会委員（現在に至る）
2016年4月	京都市公契約審査委員会委員（現在に至る）
2016年7月	京都府農業振興地域整備基本方針検討委員会委員（2016年11月まで）
2016年11月	地域農林経済学会常任理事（2020年10月まで）